

ISSN 2189-9290

The University of Aizu
Center for Cultural Research and Studies
Annual Review No.28, 2021

会津大学文化研究センター
研 究 年 報

第28号
2021



会津大学

2022年3月 発行

目 次

	Page
巻頭言	
・協力して前進する ―2021 年度活動報告―	荻間澤 勇人 1
論文	
・2021 年度の体育実技におけるオンライン講義と対面講義の学習効果比較	沖 和砂 5
研究・教育・活動報告	
・網谷 祐一	13
・池本 淳一	14
・蛭名 正司	15
・沖 和砂	16
・荻間澤 勇人	17
・小暮 克夫	18
・清野 正哉	19
・中澤 謙	20

【巻頭言】 協力して前進する

—2021 年度活動報告—

文化研究センター長 荻間澤 勇人

2021 年度も新型コロナウイルスの影響が続きました。しかし、コロナ禍の感染対策が当たり前になり、新しい日常に慣れてきたように思います。文化研究センターに目を向けると、様々な業務が続き慌ただしい1年でした。本センターの1年を時系列に振り返りたいと思います。

最初に、4月にテニユア審査委員会の立ち上げがありました。テニユア審査の対象者は、網谷祐一先生（哲学・科学史）、池本淳一先生（社会学）、小暮克夫先生（経済学）でした。6月末が資料提出の期限で、7月にプレゼンテーションによる審査がありました。資料から研究や教育、学内貢献や地域貢献の活動が計画を上回っていること、プレゼンテーションからセンター教官と協力して業務に取り組んでいることが確認され、「良好」と評価されました。先生方の業績が優れているのはもちろんですが、本センターでプレゼンテーションの事前練習を行い、スマートなプレゼンテーションができたことも良い評価につながったと思います。なお、審査員から「文化研究センターの発展に向けてさらに力を発揮して欲しい」とのコメントがありました。審査結果が9月に公表されて、2022年4月からテニユアを付与することが決まりました。おめでとうございます。

つぎに、2018年から荻間澤が教授を務めてきました。これまでの間、文化研究センターの活性化のために教授職の教官がさらに必要であると要望してきました。9月にその要望が認められました。10月から教授職の公募情報を学内に公開し、12月に応募者のプレゼンテーションを行いました。審査結果が1月に公表され、中澤謙先生（体育学・保健学）が2022年4月から教授となることが決まりました。長く本学に務められて、蓄積してきた業績が認められて教授になられます。おめでとうございます。

宮崎学長から、10月に大学改革に向けて本センターの教官を1名増員するとの指示がありました。学生に「ベンチャー企業論（日本語、英語）」、「経営学入門」「組織経営学」などを提供したいと考えて、「経営学」の教官を公募することしました。また、近年、教養教育で「データサイエンス」の科目を開講する大学が増えており、今後、本学でも、教養科目で導入する体制を整えていきたいと考えています。なお、教官の負担が増えることが課題であり、今後、「アカデミック・スキル」をオンデマンドで提供することも考えています。

2022年は、沖和砂先生のテニユア審査と経営学の教官の採用審査があります。3月から審査委員会の立ち上げの準備を始めました。また、学内の競争的研究費への応募や研究クラスターへの参加など本センター教官に期待されることが増えています。さらには、本センター内の役割分担も見直しの時期になりました。全教官が協力し合い、研究と教育、学内貢献や地域貢献を充実させ、前進していきたいと思います。

研 究 論 文

2021 年度の体育実技における オンライン講義と対面講義の学習効果比較

沖 和砂

1. はじめに

2021 年度は、2020 年度に引き続き新型コロナウイルスの流行に伴い、大学教育の在り方が問われる一年となった。一般社団法人日本体育・スポーツ・健康学会第 71 回全国大会では、「学校保健体育研究部会」のシンポジウムにコロナ禍の保健体育の意義と価値に関するテーマが掲げられた。また、この部会における“大学体育の授業をいかに良質なものにするか”という課題の口頭発表では、10 演題中 6 演題がコロナ禍における大学体育の実践に関する発表であった。このように、大学教育の中でも体育に関する科目は、感染対策を十分に行った上で質を高めることについて模索している状況である。沖ら（2021）の研究では、体育実技を非対面で実施するよりも対面で実施する方が、学生の主観的な学習効果は高いことを明らかにした。また、コロナ禍における体育実技の意義について、定期的に運動することや仲間とコミュニケーションをとることであると自由記述から導き出した。この研究における課題としては、①継続的にデータを蓄積すること、②蓄積されたデータ間で結果を比較すること、③コロナ禍における体育実技の在り方を検討すること等が挙げられた。

そこで、本研究では、沖ら（2021）⁴⁾ の調査に引き続き、2021 年度も同様に、体育実技をオンライン講義と対面講義の学習効果を学生の主観的な評価によって明らかにすることを目的にした。オンライン講義と対面講義を実施した大学の協力を得て、調査を行うこととした。

2. 対象

本研究の対象者は、本研究の対象者は、東北地域に属する某大学で体育実技を受講した 240 名、うち承諾を得られた者は 235 名（97.9%）であった。対象者の性別は、男性 208 名、女性 21 名、その他 3 名、無回答 3 名であった。平均年齢は、18.8±1.55 歳であった。受講した体育実技の講義内容と実施状況については、表 1 に示した通りである。

表1. 講義内容と実施状況

	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	第11回	第12回	第13回	第14回	講義内容
オンライン講義 (自主学習)					●					●※	●※	●※			屋外で60分以上の運動を実施することが課題。強度は個々の体力と健康度により異なる。
オンライン講義 (全員での学習)						●	●								グループワーク (自主的な運動のアイデアを出し合い実践)
対面講義	●	●	●	●				●	●	●※	●※	●※	●	●	サッカー、ランニング、 テニス、フライングディスク、 ブル等

※…感染対策のため、受講者を2班に分けた。前半組は、対面講義50分⇒自主学習50分。後半組は、自主学習50分⇒対面講義50分。

3. 方法

本調査は、体育実技の講義（全14回）の最終回（2021年7月）に質問紙を配布し、その場で回答を得た。質問の構成は、沖ら（2021）⁴⁾の調査と同様に、属性（年齢、性別、現在の運動頻度、受講前の運動頻度）、身体面に関する項目（健康維持のための運動ができたか、健康向上のための運動ができたか、体力維持のための運動ができたか、体力向上のための運動ができたか）、コミュニケーションに関する項目（仲間と協力してできたか、仲間を増やすことができたか、会話を通してコミュニケーションをとれたか）、心理面に関する項目（運動前よりも、運動後の方がリフレッシュできたか、ストレスの軽減につながったか、楽しく運動できたか）とした。身体面、コミュニケーション、心理面に関する項目は、①オンライン学習（課題を視聴・実践する自主学习）、②オンライン講義（Zoomで同じ時間帯にクラス全員で実技を行う講義）、③対面講義（グラウンド・体育館での実技）の3つの講義形態について、それぞれ7件法（7.とてもよくできた、6.よくできた、5.まあまあできた、4.どちらともいえない、3.あまりできなかった、2.ほとんどできなかった、1.まったくできなかった）にて回答を得た。その他、体育実技の意義に関する項目（自由記述式）を設けた。

4. 分析

受講前と現在（受講後）の運動頻度について、週当たりの運動回数と1回の運動時間の平均値を算出した。そして、身体面に関する項目、コミュニケーションに関する項目、心理面に関する項目は、①オンライン学習（課題を視聴・実践する自主学习）、②オンライン講義（Zoomで同じ時間帯にクラス全員で実技を行う講義）、③対面講義（グラウンド・体育館での実技）の3つの異なる講義形態で平均得点の比較を行った。自由記述は、記述された内容から研究者がKJ法を用いて分類した。研究者は、体育を専門とする教員であり、各々の専門分野は精神保健学とスポーツ健康科学である。分析にあたり、対象者が記載した内容を理解でき、さらにはKJ法を用いた経験がある。

5. 結果

（1）運動実施状況について

学生の運動実施状況について調査した結果、週当たりの運動回数は、受講前が平均 1.69 ± 1.84 回、現在（受講後）が平均 2.25 ± 1.65 回であった。また、1回あたりの運動時間は、受講前が平均 0.90 ± 0.88 時間、現在（受講後）が平均 1.28 ± 0.82 時間であった（表2）。学生は、体育実技を受講する前よりも受講した後の方が、運動実施回数が増加し、1回の運動時間も長くなっていることがわかった。

表2. 体育実技を受講する前と現在（受講後）の運動実施状況

	週あたりの運動回数（回）		1回あたりの運動時間（時間）	
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
受講前	1.69	1.84	0.90	0.88
現在（受講後）	2.25	1.65	1.28	0.82

(2) 主観的な学習効果について

オンライン（課題を視聴・実践する自主学習）、オンライン（Zoomで同じ時間帯にクラス全員で実技を行う講義）、対面講義の3つの異なる講義形態に対し、同じ質問項目を設け、得点の平均値比較を行った。

身体面に関する全ての質問（4項目）において、対面講義、オンライン学習（課題を視聴・実践する自主学習）、オンライン講義（Zoomで同じ時間帯にクラス全員で実技を行う講義）の順に平均値が高かった。また、4つの質問項目の中でも「①健康維持のための運動ができたか」に対する回答の平均値は、全ての講義形態に共通して他の質問項目の平均値よりも高かった（表3）。

コミュニケーションに関する全ての質問（3項目）において、対面講義、オンライン学習（課題を視聴・実践する自主学習）、オンライン講義（Zoomで同じ時間帯にクラス全員で実技を行う講義）の順に平均値が高かった。また、3つの質問項目の中でも「⑥仲間を増やすことはできたか」に対する回答の平均値は、全ての講義形態に共通して他の質問項目よりも平均値が低かった（表4）。

心理面に関する全ての質問（3項目）において、対面講義、オンライン学習（課題を視聴・実践する自主学習）、オンライン講義（Zoomで同じ時間帯にクラス全員で実技を行う講義）の順に平均値が高かった。また、3つの質問項目の中でも「⑩楽しく運動できたか」に対する回答の平均値は、全ての講義形態に共通して他の質問項目の平均値よりも高かった（表5）。

表3. 身体面に関する項目の平均値と標準偏差

身体面に関する項目	オンライン（自主学習）		オンライン（全員での学習）		対面講義	
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
①健康維持のための運動はできたか	5.51	1.25	5.00	1.44	6.08	0.94
②健康向上のための運動はできたか	5.40	1.32	4.87	1.51	6.02	1.02
③体力維持のための運動はできたか	5.36	1.32	4.96	1.52	6.03	0.96
④体力向上のための運動はできたか	5.04	1.48	4.72	1.59	5.90	1.11

表4. コミュニケーションに関する項目の平均値と標準偏差

コミュニケーションに関する項目	オンライン（自主学習）		オンライン（全員での学習）		対面講義	
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
⑤仲間と協力してできたか ※SNSを介しての協力を含む	4.51	2.00	4.51	1.85	5.88	1.17
⑥仲間を増やすことはできたか	4.39	2.00	4.10	1.90	5.54	1.42
⑦会話を通して コミュニケーションが取れたか ※電話、SNSを介しての会話を含む	4.80	1.88	4.64	1.77	5.87	1.18

※…オンライン（自主学習）とオンライン（全員での学習）について追記した

表5. 心理面に関する項目の平均値と標準偏差

心理面に関する項目	オンライン（自主学習）		オンライン（全員での学習）		対面講義	
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
⑧運動前よりも、運動後の方が リフレッシュできたか	5.78	1.28	5.15	1.54	6.04	1.17
⑨ストレスの軽減につながるような 運動ができたか	5.71	1.34	5.16	1.52	6.00	1.21
⑩楽しく運動できたか	5.85	1.28	5.19	1.57	6.21	1.06

(3) 体育実技の意義について

オンライン（課題を視聴・実践する自主学習）、オンライン（Zoomで同じ時間帯にクラス全員で実技を行う講義）、対面講義の3つの異なる講義形態を経験した学生は、体育実技の意義をどのように捉えているのか把握するため、自由記述で回答を得た。全回答数は、293であった。沖ら（2021）⁴⁾の研究でカテゴライズした項目をもとに、収集したデータを分類した結果、12のカテゴリー（「定期的な運動の機会」、「健康維持・増進、体力向上」、「リフレッシュの機会」、「コミュニケーションの機会」、「楽しい時間を過ごす機会」、「運動技能・知識習得の場」、「授業の一環」、「自主的に運動をはじめめる機会」、「人生」、「心身を成長させるための手段」、「自分を見つめ直す機会」、「生きるために必要不可欠なもの」となった。このうち、「自主的に運動をはじめめる機会」、「人生」、「自分を見つめ直す機会」の3つは、今回の研究で新たに設定したカテゴリーであった。そして、最も回答数が多かったのは、「定期的な運動の機会」（回答数72）であった。次いで、「健康維持・増進、体力向上」（回答数58、24.6%）、「リフレッシュの機会」（回答数55、19.8%）、「コミュニケーションの機会」（回答数31、18.8%）となった（表6）。沖ら（2021）⁴⁾の研究で設定した「自主性が尊重される場」、「施設利用方法を学ぶ場」、「自分の身体と相談する時間」、「自由と責任を考える機会」、「脳機能の鍛錬」の5カテゴリーは、今回の調査で当てはまるものはなかった。

表6. 体育実技の意義に関するカテゴリー

カテゴリー名	回答数	%	回答例
1 定期的な運動の機会	72	24.6%	運動する機会が少ない中で運動するきっかけを多くくれた講義
2 健康維持・増進、体力向上	58	19.8%	高校の時よりも「楽しむ」「健康向上」に重きを置いていたように感じました
3 リフレッシュの機会	55	18.8%	外の時は、日の光を浴びて汗をかきながら気分をリフレッシュできるもの
4 コミュニケーションの機会	31	10.6%	知らない友達とコミュニケーションを取りやすい場
5 楽しい時間を過ごす機会	25	8.5%	運動する事は楽しいので、充実した時間を過ごすことができた
6 運動技能・知識習得の場	19	6.5%	運動する上での注意点や危機管理を学ぶ場でもあると思う
7 授業の一環	18	6.1%	単位取得のための授業の一つ
8 自主的に運動をはじめめる機会 ※	7	2.4%	課された課題で始めたウォーキングを今でもしている。体育実技のおかげで習慣化することができた
9 人生 ※	3	1.0%	“人生”です それくらいの覚悟で取り組んでいます
10 心身を成長させるための手段	3	1.0%	体育の授業を長らく受けておらず、基本的に苦手な分野だが、大学で久しぶりに体育実技を受けて成長できた
11 自分を見つめ直す機会 ※	1	0.3%	自分を見つめ直す講義だった
12 生きるために必要不可欠なもの	1	0.3%	日々を生きるモチベーションである

※今回の調査で新たに設定したカテゴリー

6. 考察

(1) オンライン（課題を視聴・実践する自主学習）、オンライン（Zoomで同じ時間帯にクラス全員で実技を行う講義）、対面講義の学習効果比較

本研究では、体育実技の学習効果を学生の主観的な評価により、オンライン（課題を視聴・実践する自主学習）、オンライン（Zoomで同じ時間帯にクラス全員で実技を行う講義）、対面講義の3つの異なる講義形態間で比較することを目的に調査を行った。全ての質問において、回答の平均値が高かったのは、対

面講義であった。また、オンライン講義の中でも、Zoom で同じ時間帯にクラス全員で実技を行う講義よりも、課題を視聴・実践する自主学習の方が、学習効果が高いことがわかった。

沖ら (2021)⁴⁾の研究では、特に、身体面に関する質問への回答の平均値が、対面講義、オンライン (Zoom で同じ時間帯にクラス全員で実技を行う講義)、オンライン (課題を視聴・実践する自主学習) の順に高かった。このことから、対面で講義を行うことは、身体面、心理面、コミュニケーション面すべてにおいて主観的な学習効果が高いといえる。しかし、オンライン講義の場合、全員同時に Zoom を通じて行う講義よりも、自分のペースで自主的に実践できる講義の方が、学習効果が高い傾向にあることが本研究の特徴として挙げられる。Zoom での講義の場合、画面に映し出された教員の動作を確認しながら実施することが求められる。また、クラス全員のペースに合わせて講義が進行する。それに対し、課題を視聴・実践する自主学習では、自分のペースで場所を選ばず実施することが可能である。このように、環境や時間の制限による遠隔講義は、学生の身体的な学習効果を低下させる可能性がある。

コミュニケーションに関する質問については、全ての講義形態に共通して、「⑥仲間を増やすことができたか」に対する回答の平均値が最も低かった。これは、三つの密 (密閉、密集、密接) のを避けた運動の実施が影響を与えていると考える。スポーツ庁健康スポーツ課⁵⁾は、運動・スポーツを行う場合のマスク着用について、“着用するかどうかは、運動・スポーツを行う方の判断”としている。マスクを着用して体育実技を行った場合、口元や鼻など、顔の 50%程度をマスクで覆うことになり、表情を感知することは難しい。また、会話を控えていることから、会話量が減り仲間づくりという点においては、効果が得られなかった可能性がある。高梨ら (2017)⁶⁾は、体育実技を通じて新しい仲間を作ることで、不安が楽しさや嬉しさに変化していく可能性を示唆した。このように、仲間づくりは、心理面に影響を与えることも考えられることから、コロナ禍でどのように仲間づくりができる環境を整えていくのか検討していくことが重要である。

心理面に関する質問への回答の平均値は、身体面やコミュニケーション面の質問への回答の平均値よりも高くなった。コロナ禍で講義の内容や種目、時間に制限があっても、学生は心理的な学習効果を得ることができていることが明らかになった。橋本ら (1996)¹⁾と橋本 (2000)²⁾は、運動後のポジティブな感情の変化について調査を行った。その結果、運動開始 5 分ですでに快感情やリラックス感の増加がみられた。そして、運動終了直後に快感情はピークとなり、その後徐々に戻っていくことがわかっている。しかし、リラックス感のピークは、快感情のピークよりも遅れていることもわかっている。先行研究で、“快感情とリラックス感の増加が、いわゆる「運動後の気持ちの良い状態」を表している”^{1) 2)}と示しているように、本調査は、体育実技最終回の運動後に調査したことから、学生がこの「気持ちの良い状態」を保持した中で回答したことが結果に反映されたと考える。そして、「⑩楽しく運動できたか」に対する回答が、全ての講義形態に共通して他の質問項目の平均値よりも高かったことについて、学生の主観的な“楽しさ”の要因を検討していく必要がある。徳永ら (1980)⁷⁾は、大学体育の授業において、学生の立場から楽しさの要因を明らかにした。その結果、「運動の基本的欲求充足」「競争」「挑戦」「人間関係」「レクリエーション」・「自主的活動」・「スリル感」・「観戦・応援」・「進歩・向上」の 9 因子を抽出した。この徳永ら (1980)⁷⁾の研究は、40 年以上前の大学生に調査を行っている。従って、現代の大学生を対象にコロナ禍における体育実技の“楽しさ”について、より詳細に調査することで、講義内容を検討材料になり得る。

(2) コロナ禍における体育実技の意義

体育実技の意義について、沖ら (2021)⁴⁾ の研究をもとに分類した。今回の調査で新たに設定したカテゴリーは、「自主的に運動をはじめめる機会」、「人生」、「自分を見つめ直す機会」であった。体育実技を受講する前と受講した後の運動実施状況の調査から、受講後の週あたりの運動回数が増え、運動時間も長くなっていた。ここでいう受講後は、受講期間中も含めている。この結果から、学生にとって体育実技は「自主的に運動をはじめめる機会」となり、受講後には自主的な運動を実践しているということがわかる。また、沖ら (2021)⁴⁾ の研究では、「定期的な運動の機会」の回答数が最も多かった。今回の調査でも同様の結果を得た。さらに、今回の調査では、「リフレッシュの機会」の回答数も多く、体育実技の時間に多くの学生がリフレッシュ・気分転換を求めているといえる。

コロナ禍における体育実技は、学生にとって運動を実施できる唯一の機会であり、心身の健康を維持するためにも必要不可欠なものであったことがわかる。そして、課題を視聴・実践する自主学習の時間を設けたことにより、自分の体調や体力レベルを確認しながら運動を実践する必要があった。このことから、体育実技の講義で「自分を見つめ直す機会」を得られていたと推察する。

(3) 全体的考察

本研究では、沖ら (2021)⁴⁾ の研究の課題であった、①継続的にデータを蓄積すること、②蓄積されたデータ間で結果を比較することは達成できた。しかし、③コロナ禍における体育実技の在り方を検討することについては、引き続き調査を行う必要がある。特に、学生にとって、健康とは何を意味するのか、そして楽しさを構成する要因は何か等を明らかにすることで、コロナ禍に必要な体躯実技の内容や時間等を検討できると考える。本研究は、体育実技の講義をオンライン講義と対面講義で実施した大学の協力を得て調査することができた。今後、同様の調査を実施できるかは不明である。しかし、2年間の調査で蓄積されたデータは貴重なものであり、学生の主観的な学習効果を示唆したことは、大学体育の在り方を検討する上でも重要な役割を果たせたと考える。

7. 参考・引用文献

- 1) 橋本公雄・斉藤篤司・徳永幹雄・花村茂美・磯貝浩久, 快適事故ペース走に伴う運動中・回復期の感情の変化過程, 九州スポーツ心理学研究, 1, 31-40, 1996.
- 2) 橋本公雄, 運動心理学研究の課題—メンタルヘルスの改善のための運動処方確立を目指して—, スポーツ心理学研究, 27, 1, 50-61, 2000.
- 3) 川喜多二郎, 発想法改版—創造性開発のために, 中公新書, 2017.
- 4) 沖和砂・中澤謙, 体育実技におけるオンライン講義と対面講義の学習効果比較, 会津大学文化研究センター研究年報, 27, 5-10, 2021.
- 5) スポーツ庁健康スポーツ課, 「安全に運動・スポーツをするポイントは？」の改正について, スポーツ庁, 2020.
- 6) 高梨美奈・清水安夫, グループの成長促進を意図した大学体育における体験型学習の実践効果の検討, 神奈川体育学会機関紙体育研究, 50, 41-52, 2017.
- 7) 徳永幹雄・橋本公雄, 体育授業の「運動の楽しさ」に関する因子分析的研究, 健康科学, 2, 75-90, 1980.

研究・教育・社会活動報告

網谷 祐一 (2020年4月～2022年3月)

1. 研究活動

著書

- 2020年12月『種を語ること、定義すること』勁草書房(単著)。A5、264頁。ISBN: 978-4-326-10288-4

研究論文

- 2021年12月「山田大隆著『神が愛した天才科学者たち』のメンデルの項の誤記について」、『生物学史研究』、101号、69-73頁。
- 2021年4月 ``Did Social Interactions Shape the Reflective Mind?," 『科学哲学科学史研究』、15号、1-24頁。URI: <http://hdl.handle.net/2433/262964> [査読あり]

研究発表(主なもの)

- 2021年7月 ``Do New Evolutionary Studies of Consciousness Face the Same Methodological Problems As Evolutionary Studies of Mind Do?," The 9th Biennial Conference for the Asian-Pacific Philosophy of Science Association, Online.

その他(主なもの)

- 2021年10月「新しい意識の進化研究の一翼をなす大著」(ギンズバーグ&ヤブロンカ著『動物意識の誕生』勁草書房の書評)、図書新聞、3517号、3頁。
- 2021年9月「コロナ禍を奇貨とした授業評価アンケートの電子化」(週刊・授業改善エッセイ)、FDネットワークつばさ。URL: <http://www.yamagata-u.ac.jp/gakumu/tsubasa/essei/03-08.html>

競争的資金獲得

- 科学研究費補助金 基盤研究(C) 「アップデートされた「心の進化研究」の方法論的検討」(課題番号: 21K00036)、2021年4月-2024年3月(予定)、総額130万円(研究代表者)。

2. 教育活動

会津大学における担当授業(2021年度)

- アカデミックスキル1・2
- 哲学(日・英)
- 科学史
- 課外プロジェクト(「AI・ロボットと倫理」)

3. 社会活動

一般向け講演(主なもの)

- 2021年9月「論文指導I」、みらいづ探究ラボ、會津稽古堂(オンライン)。
- 2021年7月「研究とはなにか、どういう意味があるか」、みらいづ探究ラボ、會津稽古堂。
- 2021年1月『種』に交われば明るくなる!～生物学者のタテマエとホンネに科学哲学者が迫る～、本屋B&B(オンラインイベント)。[\[岡西政典氏、三中信宏氏とのトークイベント\]](#)

学外委員

- 日本科学哲学会(理事)、科学基礎論学会(評議員、企画広報委員、2020年度奨励賞選考委員会委員長)、『科学哲学科学史研究』誌(編集委員)

池本 淳一 (2020年4月～2022年3月)

1. 研究

学術論文

池本淳一、2020、「伝統中国における禁武政策と民間武術の法的基盤——武器に関する禁令に着目して」、会津大学文化研究センター研究年報第26号2019, pp.37～53 (査読なし)

池本淳一、2021、「コロナ禍における学生支援に関するエスノグラフィ——会津大学教職員による学生への食料品支援を例に——」、会津大学文化研究センター研究年報第27号2020, pp.115～138 (査読なし)

著作等出版物 なし

競争的研究費 平成27～31年度 科学研究費補助金・基盤研究(B) 「近・現代東アジア武術の技法と思想の変容に関する国際比較：武術原理論の視点から」(研究分担者)

その他

池本淳一、2019～2020、「中国伝統武器の手触り」、BAB ジャパン『月刊 秘伝』2019年9月号～2020年8月号、全12回、毎号計2p (取材・文を担当)

池本淳一、2020、木本玲一著『拳の近代——明治・大正・昭和のボクシング』、『社会学評論』Vol.70、No.4、pp.445～447

池本淳一、2020、「異種格闘技戦「柔拳興行」による武術性の探求——嘉納健治と嘉納治五郎」、志々田文明・大保木輝雄編著『日本武道の武術性とは何か サピエンスと生き抜く』、青弓社、pp.188～189

池本淳一ほか、2021、「座談会 喜多方を探る：北方人はなぜ何かに向かって走っているのだ！」(星宏一、鈴木治代、池本淳一、司会・樟山敬一、構成・編集部による座談会)、『会津嶺』2021年2月号(No.503)、pp.4～14、あいづね情報出版舎

池本淳一、2021.4、「特集序章 「武術と動画メディア論」 「動画で学ぶ武術」の変遷と可能性」、BAB ジャパン『月刊 秘伝』2021年5月号、pp.16～17

池本淳一、2021.11、「一健康と太極拳— フィールドワーカーが見た公園の太極拳とゆるやかさの源泉」、日本武術太極拳連盟『武術太極拳』、No.381、pp.14-15

2. 教育・運営・FD活動

担当授業 アカデミックスキル1・2 社会学 地域社会学 Sociology (集中講義)

2020～2021年度前・後期 課外プロジェクト 社会調査とICTによる地域サポートプロジェクト

2020年度前期 課外プロジェクト 「人生100年時代」に向けた健康的なカラダづくり

サークル顧問 カンフー&ライオンダンスサークル

3. 社会貢献など

外部委員 2019.4～2022.3 会津美里町教育委員会点検及び評価における有識者会議委員

2020.10～2022.3 会津喜多方商工会議所 事業推進アドバイザー

2022.2.19～2023.2.19 喜多方市立小中学校適正規模適正配置審議会委員

学会関係 2019.6.1～2022.5 日中社会学会 大会担当理事

2019.9～2022.5 関西社会学会編集委員会専門委員

蛭名 正司 (2020年4月～2022年3月)

1. 研究活動 (著作・出版, 学会発表など)

【学術論文】

- ・蛭名正司・佐藤誠子 (2020) 算数授業における割合の問題解決を促進する教授法の効果—「比例関係」と「具体的定義」に着目して— 教授学習心理学研究, 15, 70-80. (2020.5)
- ・蛭名正司・小野耕一・宮田佳緒里 (2020) 中学校理科における力の合成・分解ルールの適用を促す教授法の検討 教授学習心理学研究, 16, 1-14. (2020.10)
- ・蛭名正司・小野耕一 (2021) 湿度に関する問題解決の促進・抑制要因の検討—中学校の理科授業を対象として— 会津大学文化研究センター研究年報, 27. (2021.3)

【報告書・資料等】

- ・蛭名正司・沖和砂・中澤謙 (2021) 2020年度会津大学新入生の生活と意識1—基礎集計— 会津大学文化研究センター研究年報, 27. (2021.3)
- ・沖和砂・蛭名正司・中澤謙 (2021) 2020年度会津大学生の生活と意識1—基礎集計— 会津大学文化研究センター研究年報, 27. (2021.3)

【学会発表】

- ・蛭名正司 小野耕一 「定数入れ替え原理」の理解が内包量の問題解決に及ぼす影響—中学校理科の湿度の場合— 日本教授学習心理学会第17回年会予稿集 (2021. 6)

【競争的研究費】 科学研究費補助金 (若手研究) 「内包量概念の統合的理解を促す教授法の開発とその教授学習過程の解明」 (2019～2021), 研究代表者

2. 教育活動

教育心理学, 教育方法, 教育課程論, 数学科教育法1, 数学科教育法4, 教職実践演習, 教育実習1, 教育実習2, 教育実習事前事後指導, アカデミックスキル1, アカデミックスキル2, 心理学卒業研究, 課外プロジェクト「教師になろう！」

3. 学内運営 (委員会)

クラス担任, 生活状況調査WG, 学生支援WG

4. 社会活動

【委員等】

会津若松市教育委員会点検及び評価における有識者会議委員(2018-), 会津若松市通学区域検討委員会委員(2020.8), 会津若松市立一箕中学校学校運営協議会委員(2020-)

【講師等】

第24回会津Q-U学習会講師 (2020.10), 第25回会津Q-U学習会講師 (2021.9), 仙台育英学園高等学校模擬講義講師 (2021.11)

【その他】 オンライン学習会企画運営 (2020-), 日本教授学習心理学会編集委員会事務局 (2019-)

沖 和砂 (2020年4月～2022年3月)

1. 研究 ※代表的な研究のみ記載

(学会発表)

- ・ 沖和砂, 中澤謙. 体育実技におけるオンライン講義と対面講義の学習効果比較Ⅱ, 日本体育・スポーツ・健康学会第71回大会, 学校保健体育-A-08, 2021.9.7 (口頭発表).

(学術論文)

- ・ 沖和砂, 中澤謙. 体育実技におけるオンライン講義と対面講義の学習効果比較, 会津大学文化研究センター研究年報 (27), 5-10, 2020. (2021.3 発行)
- ・ 蛭名正司, 沖和砂, 中澤謙. 2020年度会津大学新入生の生活と意識1 -基礎集計-, 会津大学文化研究センター研究年報 (27), 11-34, 2020. (2021.3 発行)
- ・ 沖和砂, 蛭名正司, 中澤謙. 2020年度会津大学生の生活と意識1 -基礎集計-, 会津大学文化研究センター研究年報 (27), 35-92, 2020. (2021.3 発行)
- ・ 中澤謙, 沖和砂. 体育実技科目における授業の再設計過程 ~新型コロナウイルス感染症への対応~, 会津大学文化研究センター研究年報 (27), 93-100, 2020. (2021.3 発行)
- ・ 渡部琢也, 君野貴弘, 沖和砂, 中澤謙, 室井富仁. 2020年度会津大学短期大学部運動技術履修者の体力, 会津大学短期大学部研究紀要 (78), 107-112, 2021. (2021.3 発行)

(競争的研究費)

- ・ 令和3年度公益財団法人福島県学術教育振興財団助成金対象事業「コロナ禍における体組成計を用いた小中学生の肥満化傾向及び筋肉量の把握」(研究分担者)

2. 教育・運営・FD活動

(担当授業)

- ・ 体育実技1 (3クラス)、2 (3クラス)、3 (1クラス)、4 (スキー) ・保健体育理論
- ・ 卒業研究 ・アカデミックスキル1、2 ・SCCP (A unique sport in Aizu)
- ・ 健康運動科学実習 (2クラス) (国立大学法人福島大学) ・スポーツ心理学 (順天堂大学大学院)

(学内委員会)

- ・ 図書委員会 ・ハラスメント防止/対策委員会 (ハラスメント相談員) ・衛生委員会
- ・ カフェリモデルプロジェクト ・学生支援WG

3. 社会貢献

(外部委員)

- ・ 福島県スキー連盟 (理事)・福島県スポーツ指導者協議会 (理事)・人類働態学会 (事務局幹事)
- ・ (公財)福島県体育協会トップコーチ養成事業 (講師)、スポーツ医事/トレーニング相談事業 (講師)、ターゲット発掘事業 (講師)、福島県立磐城高等学校・勿来工業高等学校ラグビー部メンタルサポーター

(講演活動)

足利短期大学・公益財団法人福島県体育協会・山形県スポーツ少年団指導者・育成・福島県立磐城高等学校ラグビー部・福島県立勿来工業高等学校等で活動

荻間澤 勇人 (2020年4月～2022年3月)

1 研究活動 (著作・出版, 論文, 学会発表)

- ・清水由佳・荻間澤勇人(2021). 紙上進路指導ケーススタディ キャリアガイダンス, Vol. 436, Vol. 437, Vol. 438, Vol. 440, リクルート
- ・荻間澤勇人(2021). Q-Uを教師行動の変容に生かす 日本教育評価研究会編 指導と評価 67 (通巻803号臨増), pp. 23-25, (一社)日本図書文化協会
- ・浅野紗季・荻間澤勇人(2021). 知的障害特別支援学校における就労能力向上を目指した支援 教育カウンセリング研究, 11. 特別号, pp. 45-56

2 教育活動

- ・教育入門 ・教師入門 ・道徳教育 ・特別活動 ・生徒指導・教育相談 ・情報と職業
- ・教育実習事前事後指導 ・教育実習1・2 ・教職実践演習 ・アカデミックスキル1・2

3 社会活動

(1) 会津大学公開講座

- 講義 第24回～第27回「これから10年先の教育を見据える教師の支援 (会津QU学習会)」
- 教員派遣公開講座

- | | |
|-------------------|-------------------|
| ・会津若松市立小金井小学校 | ・喜多方市立教育委員会 |
| ・猪苗代町教育委員会 | ・会津坂下町立坂下中学校 |
| ・会津坂下町立会津坂下南小学校 | ・会津坂下町立坂下東小学校 |
| ・会津美里町立高田小学校 | ・会津湯川町立箕川小学校 |
| ・白河市教育委員会 | ・白河市立白河第三小学校 |
| ・矢祭町立矢祭小学校 | ・鮫川町立鮫川小学校 |
| ・青森県 八戸学院光星学院高等学校 | ・青森県 八戸学院野辺地西高等学校 |
| ・岩手県立葛巻高等学校 | |

(2) 研究成果の還元 (研修会)

- | | |
|----------------------|---------------------|
| ・岩手県 一戸町教育委員会 | ・岩手県 洋野町教育委員会 |
| ・山形県教育センター (生徒指導協議会) | ・山形県教育センター (5年次研修会) |
| ・山形市教育委員会 | |

(3) 委員等

- ・福島県教育委員会 使用教科用図書選定審議会 (委員) (2018年度から)
- ・会津若松市教育委員会 学力向上委員会 (委員長) (2016年度から)
- ・白河市いじめ対策連携協力会議 (委員)
- ・その他

(4) 学会活動

- | | |
|-----------------------------------|------------------------|
| ・日本教育心理学会 社員 (理事) | ・日本学校心理士会 年報査読委員 |
| ・日本特別活動学会 理事 (紀要編集委員) | ・日本教材学会 理事 (東北・北海道支部長) |
| ・日本学級経営心理学会 常任理事 (査読委員, 広報委員) | |
| ・日本教育カウンセリング学会 常任理事 (事務局長, 査読委員) | |
| ・日本生徒指導学会 理事 (査読委員, 北海道・東北支部担当理事) | |

小暮 克夫 (2020年4月～2022年3月)

1. 研究

(学術論文)

- Kogure, Katsuo and Masahiro Kubo, "Consequences of Cambodian Refugees," unpublished manuscript, Hitotsubashi University, March 2022. (査読無)

(講演・口頭発表等)

- Kogure, Katsuo, Comments on the Paper "Does the Existence of Overseas Members Make Households More Resilient against Natural Hazards? An Examination with the Post-earthquake Census Data in Nepal" by Tanaka et al., 2021 Japanese Economic Association Autumn Meeting, Osaka University (web), October 9, 2021. (討論)
- Kubo, Masahiro and Katsuo Kogure "Consequences of Cambodian Refugees," 2021 Australian Meeting of the Econometric Society, July 8, 2021. (査読有)
- Kubo, Masahiro and Katsuo Kogure, "Consequences of Cambodian Refugees," 2021 Asian Meeting of the Econometric Society, June 25, 2021. (査読有)
- Kubo, Masahiro and Katsuo Kogure, "Consequences of Cambodian Refugees," 2021 North American Summer Meeting of the Econometric Society, June 11, 2021. (査読有)
- Kogure, Katsuo, Comments on the Paper "Wartime Service Provision and State Legitimacy: Evidence from the former FATA Region, Pakistan" by Hidayat, Kubota et al., 2020 Japanese Economic Association Spring Meeting, Kyushu University (web), May 30, 2020. (討論)

(競争的研究費)

- 2020-24年度 科研費(基盤研究(C)). 「紛争と経済発展に関する実証研究」(研究代表者)
- 2018-22年度 科研費(挑戦的研究(開拓)). 「空間データと開発プログラム評価の統合」(研究分担者)
- 2018-23年度 科研費(国際共同研究強化(B)). 「熱帯雨林の保全と開発に関する学際共同研究」(研究分担者)

2. 教育・運営

(担当授業) 経済学(日本語), 経済学(英語), 経済発展論, アカデミックスキル1・2

(学内委員会) 情報センター運営委員会, クラス担任

3. 社会貢献

(出前講義)

- 「大学に必要な読解力・論理的思考力・記述力について」福島県立会津学鳳高等学校 (1年生), 2021年12月20日.
- 「超長期的視点から見た世界経済」福島県立会津高等学校 (1-2年生), 2020年11月7日.

(外部委員)

- 日本貿易振興機構(JETRO)アジア経済研究所(研究会委員)(2020-21年度), 一橋大学経済研究所(非常勤研究員)(2021年度), 国際協力機構(JICA)(アドバイザー)(2020年度), 会津若松地方広域市町村圏整備組合情報公開等審査会委員(委員)(2020-21年度)

清野 正哉 (2021年4月～2022年3月)

1. 研究活動等

- ・外部シンクタンクより、以下の内容のe-ラーニング講座の教育コンテンツの制作・監修
 - 「未来の教室」をつくる GIGA スクール
 - 地方自治体の情報政策研修
 - 大学講義のオンライン化と著作権対策研修
 - 続発する研究不正を防ぐ研究データポリシー策定の必要性

2. 担当授業科目・学内委員会・公開講座等

(担当授業科目)

- ・コンピュータ理工学部 専門教育「情報倫理」、
教養教育「日本国憲法」、「法学」
SCCP 公務員・教員試験対策講座・ベンチャー/コンテンツビジネス(今年度休止)

(学内委員会)

- ・学生支援委員会

(公開講座・教員派遣講座としての担当内容) ただし、コロナ感染等の関係で依頼なし

「AIの法律・倫理問題」、「安心・安全のための情報の取り方」、「学校教育における情報モラル」、「クラウドコンピューティングの法律問題」、「ソーシャルメディアと企業経営」、「ソーシャルメディアなどのインターネット及びスマートフォンの利用におけるトラブル・法律問題とその解決講座」、「地域活性化のための方法論」、「企業経営や事業化のための資金調達の方法論」

2-2 学外 担当授業科目

竹田看護専門学校 「看護と法」

3. 教育実践・地域貢献活動

- ・県内中小企業及び県外企業、NPO 法人、市町村からの相談多数 (相談内容の例 技術評価・技術マッチング、知的財産管理、著作権、商標・意匠事業、個人情報管理、企業経営戦略、資金調達、社内人材育成、ソーシャルメディア事業、新規事業戦略・方法、再生エネルギー事業、法令解釈 子ども子育て関係)

(学外委員等)

- ・会津若松市行政不服審査会 会長
- ・会津若松市情報公開及び個人情報保護審査会 会長
- ・会津若松市子ども子育て会議 会長、会津若松市次世代育成協議会 会長
- ・喜多方市立小中学校適正規模適正配置審議会 会長(2021年9月まで)
- ・福島県後期高齢者医療広域連合情報公開・個人情報保護審査会 委員
- ・下郷町情報公開審査会 会長
- ・宮城県行政書士会会員 (登録のみ)

4. その他

- ・特許権 4747250 号(代理人端末装置及び代理人端末装置の制御プログラム 2012年5月27日登録)更新中

中澤 謙 (2020年4月～2022年3月)

1. 研究

(競争的研究費)

- ・ 2021年度科学研究費補助金(基盤研究C)・保育者としての成長過程に沿ったVR-Learning教材の開発(研究代表者)
- ・ 2018-2020年度科学研究費補助金(基盤研究C)・保育実践場面における保育者の観察力量を高める方法の開発 研究成果報告書(研究代表者)

(学会発表)

- ・ 中澤 謙(2021)[03心-口-08]アルティメットにおけるハンドラーとオフENSEの意思決定プロセス,日本体育・スポーツ・健康学会第71回大会
- ・ 沖 和砂,中澤 謙(2021)[学校保健体育-A-08]体育実技におけるオンライン講義と対面講義の学習効果比較II,日本体育・スポーツ・健康学会第71回大会

2. 教育・学内運営

(担当授業)

- ・ 体育実技1(C2,C3,C5)
- ・ 体育実技2(C1,C3,C5)
- ・ 体育実技3
- ・ 体育実技4(水泳)
- ・ 保健体育理論
- ・ アカデミックスキル1
- ・ アカデミックスキル2
- ・ 卒業研究
- ・ SCCP(Human Body Motion Analysis Project)
- ・ 運動と健康(短期大学部)

(学内委員会)

- ・ 教務委員会
- ・ カリキュラムワーキンググループ

3. 社会貢献

- ・ 全国国公立大学選手権水泳競技大会(開催支部・上訴審判)2021年8月7日～9日
- ・ 第97回日本学生選手権水泳競技大会(上訴審判)2021年10月7日～10日
- ・ プロフェッショナルビジョン.会津若松市倫理法人会経営者モーニングセミナー,2021年8月19日
- ・ 「会津大学研究室を歩く42 中澤研究室 人の『気づき』可視化」2021年11月6日 福島民報掲載
- ・ 「VRで保育の質向上」2022年1月4日 福島民報掲載

(外部委員会)

- ・ (公財)日本水泳連盟学生委員会北部支部(支部長)
- ・ 福島県スポーツ振興基金(理事)
- ・ 福島県スポーツ医・科学委員会(委員)

執筆者一覧（五十音順）

網谷 祐一	(A)	会津大学上級准教授（哲学・科学史）
池本 淳一	(A)	会津大学上級准教授（社会学）
蛭名 正司	(A)	会津大学准教授（教育心理学）
沖 和砂	(P)(A)	会津大学准教授（スポーツ健康科学）
苅間澤 勇人	(PF)(A)	会津大学教授（教育学）
小暮 克夫	(A)	会津大学上級准教授（経済学）
清野 正哉	(A)	会津大学上級准教授（法学・情報倫理）
中澤 謙	(A)	会津大学上級准教授（保健学）

※ (PF)巻頭言 (P)論文 (A)活動報告

会津大学文化研究センター研究年報 第28号 2021

2022年 3月 31日 発行

発行 会津大学

郵便番号 965-8580

福島県会津若松市一箕町鶴賀

Fax 0242(37)2751

編集 会津大学文化研究センター

